

校費留学（国外）研修成果の概要報告

1 頁 / 2 頁中

地域共創学群 外国語学系・教授
佐藤 美希

令和4年4月から令和5年3月まで、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院の翻訳学研究センター (Centre for Translation Studies, School of Orient and African Studies (SOAS), University of London) の客員研究員として、「翻訳学の視座による日本の英文学受容研究」というテーマに基づき、研究に従事した。なお、この期間は科研費（挑戦的研究・萌芽）研究課題「近世翻訳受容と明治初期英文学受容の連続性：翻訳研究からの考察」の最終年度に当たっていたため、その研究も並行して実施した。

この研修期間内に発表した論文および口頭での研究発表は下記の通りである。

- ・ ‘The Conceptualisation of *Hon’an* (Adaptation) in Edo and Meiji Japan.’ 『通訳翻訳研究』第22号、2023年3月、pp.17-29. (査読あり、単著)
- ・ 「村上春樹の新訳への読者書評と翻訳観の展開」 『文化と言語』第88号（『札幌大学研究紀要』第4号）、2023年3月、63-94. (単著)
- ・ 「2000年代以降の文学の〈翻訳〉概念」（研究ノート） 『文化と言語』第87号（『札幌大学研究紀要』第3号）、2022年10月、125-153. (単著)
- ・ ‘Translation/Adaptation in the late Edo and English literature in the early Meiji: From the perspectives of Translation Studies.’ in *Impact*, Volume 2022, Number 5, October 2022, pp. 43-45.
- ・ ‘Readers’ reviews on the retranslations by Haruki Murakami.’ 13 Dec. 2022 (Université Paris Cité, France) (招待講演)
- ・ ‘ “Ordinary” readers’ reviews on retranslation: A case of retranslation by Haruki Murakami.’ SOAS Centre for Translation Studies Seminar Series, 21 Oct. 2022 (SOAS, University of London, UK) (招待講演)
- ・ ‘“Translation” and “adaptation” in the Edo and Meiji Japan.’ The 4th East Asian Translation Studies Conference (EATS 4), 30 June - 2 July 2022 (Université Paris Cité, France)

この他に、現在、共編著者として出版準備を進めている英語書籍 (*Tsūji, interpreters in and around early-modern Japan*) に所収される単著論文1本と共著論文2本を執筆した。同書はイギリスの出版社 Palgrave 社から今年度中の出版を予定している。

SOAS の翻訳学研究センターは、翻訳学の研究が進んでいるイギリスの中でも、特にアジア・アフリカ言語文化の翻訳研究を牽引する世界有数の研究センターであり、センター長である Nana Sato-Rossberg 教授は、日本に関する翻訳研究の第一人者の 1 人である。今回の留学研修では彼女が私の受け入れ教員として同センターでの研究の機会を提供して下さった。

SOAS の図書館やその近隣に位置する大英図書館には日本に関する重要文献が揃っており、英語と日本語両方の文献が必要となる私の研究にとって、極めて充実した研究環境であった。また、同センターで定期的に行われていた翻訳学のセミナーや、SOAS に設置されている日本学研究センター (Japan Research Centre) のセミナーは非常に充実していた。コロナ禍のロックダウンを経たイギリスでは、オンライン研究会開催の体制が良く整備されており、イギリス国内の他大学や British Comparative Literature Association、Daiwa Foundation といった学会・研究機関が実施する多種多様な研究会に容易に参加できたのも大きな収穫となった。

個人での研究と並行して大学院での翻訳学と日本文学の講義・セミナーにも参加した。最先端の研究成果に触れるとともに、欧米での研究動向についても実体験として理解を深め、日本での翻訳学の発展に貢献しうる様々な知見を持ち帰ることができた。また、英語による日本文学研究の講義やディスカッションに参加することで、翻訳と外国文学受容の多様性を直に体験できたことは極めて貴重な経験であり、自分の研究を進化・深化させる契機になった。

さらに、翻訳学や日本研究を牽引する SOAS で研究に従事できたことで、多くの優れた研究者と研究交流する機会が数多くあり、様々な人脈を得るとともに、研究上の刺激を大いに受ける機会に恵まれた。ヨーロッパという地理的な利もあり、フランスの研究者との交流やワークショップの開催企画など、今後の研究活動の幅も広がる機会となった。

今後は、この 1 年間の留学研修で得た様々な知見を生かし、さらに研究に邁進するとともに、この研修で得たものを授業などを通じて学生に還元することに尽力する所存である。

以上のような充実した研究期間をいただけたことについて、札幌大学に深く感謝申し上げます。